

## 「質の高い教育の概念と役割」

ダニエル・シフナ  
ケニヤッタ大学教育学部教授



「人によって多くの解釈があるので質の定義は難しい」ということを、ここで長々と述べようとは思いません。欧米の教育思想によって概念化されてきた様々な定義から、多様な考え方が生まれています。子ども中心の学習を重視する「人間的アプローチ」は、知識やスキルの習得は個々の学習者の積極的な参加が必要だという考え方に立ちます。しかしそのような考え方は文化に左右されます。

第二の重要な伝統は、行動主義の理論に基づく「行動主義的アプローチ」です。このアプローチでは、標準化され、外部によって定義され、管理されたカリキュラムを通じて、教育の質を判断します。このカリキュラムは規定の目標に基づき、学習者とは関係なく定められます。

第三の伝統的な思想は、フレイレなど批判的な考え方をする人々の思想です。より広い社会に存在する社会的な不平等構造を再生産する傾向が教育にあることを懸念しているのが、彼らの共通点です。

工業化が遅れている発展途上国では、それに代わる開発パラダイムを確立しようと、重要な努力が行われています。植民地主義の遺産と低開発を原因とする諸問題をかかえる社会経済的・政治的な現実をふまえ、教育だけでなく様々な開発分野に適用できるパラダイムが模索されています。この第四のアプローチは「固有のアプローチ」と呼ばれ、学習者の社会的・文化的状況に合わせ、社会的・文化的な現実の主要な原則にのっとった教育の重要性を再認識するものです。

教育の質の概念についてですが、第三世界諸国の質と平等に関する諸研究によると、「質」という言葉の定義に関するコンセンサスがいまだにできていません。さらに重要なことは、質の概念が社会的な価値観と結びついており、時とともに変化することです。

一般の人も専門家も、政治的な当局者も、保護者も地域の人々も、教員も教育行政者も含めて、多くの人々は、「教育の質」は全国試験の結果など、認知的な成果によってわかると考えています。よい候補者は全国試験の成績がよい人です。

すべての教育制度は共通して、児童生徒の認知能力の向上を目標としています。また教育を通じて、よりよい市民の育成、つまり社会が大切にしている価値観をサポートし強化できる市民を育成することを、すべての国は願っています。すなわち児童生徒が社会の価値観を学ぶ能力を育成する教育も、質の高い教育です。

しかし認知能力をテストする全国試験や国際的な試験で常に高得点を出す学校の教育が、質の高い教育であるとされています。背景となる状況（コンテキスト）によって質を定義する教育者もあります。この考え方によると、教育の質は人々の文化的な伝統、社会的な関係、経済・政治的な生活に根ざしています。このコンテキストでは、質の高い教育は国や文化によって独自のものとなります。

世界銀行のような機関は、インプット－プロセス－アウトプットのモデルを好んで用います。学校の効率はインプットに対するアウトプットの率であるという考え方によって、質が判断されます。この考え方では、他の条件が同じ場合、同じリソースのインプットで、より多くのアウトプットをもたらす学校、または少ないインプットで同程度のアウトプットをもたらす学校が、より効率性の高い学校とされます。世界銀行は、質イコール学校のアウトプットを達成する効率と考える傾向があります。世界銀行は、学校の達成度は児童生徒の認知能力の成績、つまりインプットに対するアウトプットの効率であると考え、それを指標として用

いています。アウトプットは、学んだ事柄や能力の種類や量など実際の達成度だけでなく、それに準じるものも含まれます。

しかし最も重要な点は、教員が働く学校における現実、リソースなどの変数、教員としての能力など、教育の限られたコンテキストの中で、どのような教授法や学習法が可能かということです。質の概念は、このように相対的なものであり、時代や場所によって変化します。なぜなら、質の高い教育の目標や機能や、質の高い教育を実現するための手段が変わるからです。

最低限の質のレベルは、十分に機能的な識字能力と、日常の簡単な問題に应用できる、基礎的な算数・数学の運用能力をマスターすることだというのが、最も重要な点です。例えば、東京のような忙しい大都会で生きるためには日本語の読み書きができなければならないことは、だれでも知っています。

質を定義するためには、教育に影響を与えるその他の要素も考慮しなければなりません。例えば男子と女子では、学校で受けられるカリキュラムが異なったり、教員の接し方が違ったり、規則が違ったりするために、同じ学校に通っていても違う経験をする可能性があります。

質の高い教育の概念について様々な議論がありますが、質の高い教育によって知識や能力や態度の習得が容易になることは、多くの研究から明らかです。そのような知識や能力や態度は、それ自体価値があると同時に、人間の重要な目標に取り組むのを助けます。

また、質の高い教育は国の経済成長に影響を与えると考えられます。例えば、技術的な進歩に合わせた質の高い教育が高度成長に貢献した国の例として、米国、日本、韓国などが挙げられてきました。

具体的には、より教育レベルの高い社会では、企業がより新しい優れた生産方式を導入したり、より早く新技術を導入したりできるので、イノベーションの率が高くなり、全体的な生産性が向上する可能性があります。社会的な利益も大きく重要です。識字能力や計算能力の習得、特に女子の習得は、開発にとって不可欠だと考えられています。

